議会レポート

発行者　鈴鹿市議会議員 石田秀三
鈴鹿市伊船町2751　電話 371-0423
2008.1.24 .№１５２　FAX 371-2469

来年度の国保税率改定案

後期高齢者医療への制度変更のため

1月15日の市議会全員協議会に、08年度の国保税率改定案が出されました。今回の改定は、75才以上の市民を新たな「後期高齢者医療」制度に移行させるために行なうもので、国保税の仕組みも変わります。

現在の国保税　＝　医療分　＋　介護分
改定後の国保税　＝　医療分　＋　後期高齢者支援分　＋　介護分

「資産割」を半減し、「所得割」を0.2%上げる 介護分は２割アップ、限度額は最高68万円に

今回の改定は、①従来の「医療分」を、「医療分」と「支援分」に分ける、②「資産割」をなくす方向で当面半減させ、その分だけ「所得割」を上げる、③「介護分」が不足し医療費に食い込んでいるので、引き上げて是正する、④最高限度額を合計61万円から68万円に引き上げる、などです。

アップの要素とダウンの要素が混じっているので、世帯により、人により税額が上がったり下がったりとなります。例えば、資産割の多かった人は減税になり、逆に資産割のない人は増税になる、「介護分」がかかる40～64歳の人は増税になる、最高限度額に達している人も増税になる、などです。

〔国保税率改定案〕　**（「現行医療分」は、「改定医療分　＋　新・支援分」の合計に改定される）**

	所得割	資産割	均等割	平等割	賦課限度額
現行医療分	７．２％	１５％	30000円	30000円	５３万円
改定医療分	**５．２％**	**５％**	**24000円**	**24000円**	**４７万円**
新・支援分	**２．２％**	**３％**	**6000円**	**6000円**	**１２万円**
現行介護分	１．７％	３．２％	5800円	4800円	８万円
改定介護分	**２．２％**	**２．２％**	**7200円**	**6000円**	**９万円**

あなたの国保税は上がる？下がる？

今回の改定案を、具体的なモデルで試算してみると、次のようになります。

①65歳２人世帯、年金収入202万円、資産税５万円の場合
　　医療分・支援分合計　114,700円　→　112,100円　（－2,600円）
②40歳夫婦子２人の４人世帯、自営業所得400万円、資産税10万円の場合
　　医療分・支援分合計　429,200円　→　429,500円
　　介護分　80,000円　→　90,000円
　　合計　509,200円　→　519,500円　（＋10,300円）
③70歳１人世帯、年金収入153万円、資産税なしの場合
　　医療分・支援分合計　18,000円　→　18,000円　（変わらず）

医療分・支援分だけでは、増減どちらも小幅ですが、介護分がはいると１万円は増税になります。つまり、40歳～64歳の方がいる世帯に影響が大きい改定だと言うことができます。この改定案は、３月議会で審議されます。

福祉医療費助成、県が「自己負担」導入を見直しへ

12月議会一般質問で私が取り上げた「福祉医療費助成」への自己負担２割導入について、その後、大きな動きがありました。その第１は、県議会が１月18日、野呂知事に対して自己負担導入を撤回するよう申し入れたことです。これは県議会全会派が一致して行動したもので、画期的なことです。第２は、21日に県と市町担当者の会議が開かれ、改めて鈴鹿市をはじめ市町の大多数が自己負担反対を表明したことです。

これらを受けて野呂知事は、22日の記者会見で「すべての市町が受け入れられる案としたい」と述べ、自己負担見送りの方向で早期に判断することを表明しました。県議会も市町も反対というのは、全県民が反対していることであり、知事としてその意思に沿うことは当然です。

そもそも福祉医療とは、乳幼児・一人親・障害者という「弱者」のための制度なのに、その弱者に「自己負担」を押し付けようとする考え方が間違いだったのです。わずか６億円の予算増をケチって、福祉よりも「財政」を優先させようとした県当局は、しっかり反省すべきです。

先進的な鈴鹿市の耐震工事補助制度

阪神大震災から13周年を記念したＮＨＫの番組を見ていたら、東京墨田区の「簡易耐震改修」制度の紹介をしていました。それは、古い木造家屋を地震で倒壊しないようにする工事には何百万円もの費用がかかり、行政の補助があっても自己資金が相当必要で、一人暮らしの高齢者にはとてもムリです。しかし、その人が「家が壊れても、身を守り逃げ出すことができる」程度の補強をすれば、少なくとも命は助かります。行政がそのような工事に援助して、補助金30万円、自己資金30万円で、お年寄りの家の居間と玄関を改修した実例が紹介されていました。

３年前から工事費の３分の２、30万円を制度化

テレビを見ていて、なるほどと思い、鈴鹿市はどうなっていたかなと防災安全課に聞いてみました。すると「もう平成16年からやっています」との返事で、鈴鹿市は意外にも全国の先進地なのでした。たしかにパンフレットを見ると「倒壊時間を稼ぎ命を守るための補強も、補助の対象になります」と、小さい字で書いてあります。補助率も、墨田区より高い３分の２です。18年度決算では1760万円の実績となっていますが、まだまだ少なく、市民に広く知らせていけば、もっと沢山の利用があるのではないでしょうか。

本会議質問時間が15分足りない！

新庁舎の議場に移り、「対面・一問一答方式」の質問になった時に、質問時間がこれまでの１人60分から、１人45分にカットされたまま現在に至っています。会派ごとに議員数×45分が割り当てられるので、全員が質問しない会派では１人60分使えますが、共産党市議団は毎回２人とも質問するので、45分の窮屈な時間のままです。

12月議会で事務局に、各議員の質問時間と執行部の答弁時間を計ってもらいました。私の場合は、45分のうち質問がわずか16分、答弁の方は長々と29分という結果で、あともう１、２回質問を突っ込めば面白いのに、というところで時間切れです。他の議員の中には、60分の持ち時間を15分以上も残して終わる人、30分近くも演説し答弁はほんの15分という人もあり、「その余った時間をこちらにくれ」と言いたくなります。

ずいそう

戦争と平和と若者たち

正月明けに暖かい所でのんびりしようと、鹿児島に出かけた。指宿の「砂むし温泉」などを楽しんで、薩摩の小京都といわれる知覧を訪ねた。知覧は「軍都」という顔もあり、敗戦間近い昭和20年に、本土最南端の「特攻基地」となったことで有名である。

「知覧特攻平和会館」に入ると、沖縄へ出撃し南の海に散った１千人余の特攻隊員たちの写真や遺書、遺品が、所狭しと展示されている。一人一人の写真や、親兄弟に書き送った手紙を見ていると、だんだんと胸が苦しくなってきて、とても全部を回ることができなかった。

笑顔で写真に納まっている隊員たちは皆、17才から25才の若者である。彼らに与えられた使命は「死ぬこと」で、これからの可能性にあふれた人生を全否定され、無理に納得させられて自らの命を絶ったのである。

若者がいきいきと「生きる」世の中に

１月13日、鈴鹿サーキットで成人式が行なわれた。華やかな振袖やスーツ姿の若者を見ながら、知覧で見てきた同年代の若者のことを思った。これから展開する人生の主人公として羽ばたく若者と、まったく未来を語ることも許されなかった若者。この対比で、ふだんあまり考えない平和と戦争との違いが、はっきりとする。63年間、戦争がなかった、戦争をしなかったことの意義、すばらしさを、改めて思う。

それでも目の前の若者を見ていると、人の話を聞かずに大声でべらべらとおしゃべりしている、あちこち立ち歩いてケータイと話している、芸者さんのような着物と髪型などなど、私の年代ではかなり気になる。しかし、これも平和だからこその風景だと考えれば良いと思った。もし、全員が死を覚悟したような顔だったら、それこそ恐ろしいではないか。

先日は、テレビで「技能オリンピック」で入賞した日本の若者たちの番組があった。これも20才前後の若者であるが、大工や左官、石工、機械工、庭師などの職人としての誇りと向上心にあふれた表情に、感動した。平和な世の中で、若者が自分の目標に向かっていきいきと「生きる」ことができる、そんな日本であってほしい。